# 令和７年度　坂戸市立住吉中学校　学校評価結果　（教職員評価及び学校関係者評価者評価）

| 領域 | ＮＯ | 評価項目 | | 教職員評価コメント | 教職員評価 | 学校関係者評価者評価コメント | 評価者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 組織・運営 | 1 | 目指す学校像の実現 | **校長は、目指す学校像の実現に向け、経営方針を職員や保護者に説明している。** | ◎全体としては、目指す学校像『生徒にとって将来を生き抜くために必要な力を育成する学校』の具現化に向けて、前進している。<br>・チェック（C）をどのようにしていくのか。<br>※日々の中で時間がなかなか生み出せないことに課題がある。<br>・その行事ごとの反省を生かす、学校評価を充実させるなど。<br>・プラン（P）、アクション（A）をどのように充実させていくのか。（例年通りからの脱却） | B | ・新しい取組が他の学校からも評価を受けているということは、とても素晴らしい取組をされているのだと思いました。<br>・昔の良いところはそのままで変わらなければいけないところは変えつつ、先生や生徒が過ごしや数環境づくりが大切だと思います。<br>・学校だより等で学校の取組などを伝えていただいています。<br>・方向性をわかりやすく出すことが大事だと考えます。<br>・目指す学校像はわかるが、現実に向けどのくらいの成果が出ているのかが見えてこない。 | B |
| | | | **本校は、学校経営の重点を明確にして取り組んでいる。** | | | | |
| | | | **本校は、PDCAサイクルで教育活動に取り組んでいる。** | | | | |
| | 2 | 災害・事故などへの組織的な対応 | **本校は、危機管理マニュアルを整え、共通理解をしている。** | ◎大規模災害時の生徒対応<br>※質の高い避難訓練・防犯対策訓練ができている。<br>・災害等が起こったときの臨機応変な対応を訓練で行っており、いいと思います。<br>・今年度の避難訓練や不審者対応訓練はいろいろ工夫がされていて、今までのものより実際にはどう動いたらいいのか考えるきっかけになっていたと思います。ただ、訓練の実施後の振り返りを教員全体で共有出来たらさらによかったと思います。<br>・実際の場面を想定した訓練ができていると思います。<br>◎安全点検の在り方について（どのようにしていけばいいのか）<br>※安全に関する教職員の意識は高い。<br>◎自転車の乗り方等について、今年度も複数回、お叱りをいただいた。<br>※学校では、生徒へ注意喚起を行う等、行ってはいるものの、地域からの自転車の乗り方等のお叱りを受けることがなかなか０にはならない。<br>・学校だけの指導では、頭打ち感も感じている。ただ、事故が起こってからでは遅いので、今後も継続して生徒の命を守る注意喚起を行っていく。 | B | ・先生方は取り組みされていらっしゃるようですが、校外で実行されていないのが現実です。校外に出たらヘルメットをかごに入れてしまう生徒を見かけます。また、休みの日にノーヘルメットで自転車に乗っている生徒も見かけます。顎ひもをせずヘルメットを頭にのせているだけの子もいます。<br>・登校時にヘルメットを着用していない生徒や右側走行をしている生徒が見られます。地域としても見守りたい。<br>・自転車はルールとマナーを守って安全にのる指導が必要です。<br>・以前より、登下校でのヘルメットの着用ができていないように感じる。 | B |
| | | | **本校は、災害や不審侵入に対する訓練を実施している。** | | | | |
| | | | **本校は、安全点検を確実に実施している。** | | | | |
| | | | **本校は、家庭・地域と連携し、登下校の安全や自転車乗車時のヘルメット着用など児童生徒の安全確保に取り組んでいる。** | | | | |
| | | | **本校は、整理整頓された環境を整備している。** | | | | |
| | 3 | 働き方改革 | **本校の教職員は、時間外勤務が月４５時間以上とならないよう努めている。** | ◎勤務時間と勤務時間外在校等時間（いわゆる残業）は月４５時間以内は、法令で定められていることなので、やらなければいけない。この前提に立った上で、とはいっても難しい。このルールを守るために、仕事を家に持ち帰り、隠れ残業をすればいいのか…？と言われれば、それも違う。<br>→なかなか理想的に勤務時間と残業月４５時間以内をきれいにクリアすることは難しいとしても、それぞれの先生方が気持ちよく仕事ができる環境はつくるべきであると考える。このルールを守るために、特定の人に負担がのしかかるとかやりたいことができないということは極力減らせるとよい。 | B | ・この問題はかなり難しいと思います。簡単に評価はできません。先生方の仕事量とやらなければならないことのバランスが成立しないような状態なのではないかと思います。<br>・時間外勤務を月４５時間以内に抑えるのは、学校だけでは限界がある。国や自治体の助けも必要だと思います。<br>・働かせ方の改革が先ではないでしょうか。<br>・どの職種でも多かれ少なかれある課題。職員同士で協力できるところは協力し合える環境づくりを目指してほしい。 | B |
| | | | **本校は、ノー残業デーを実施している。** | | | | |
| | | | **本校は、行事や部活動について適切な活動時間や役割分担となっている。** | | | | |
| | | | **本校は、長時間勤務者に対して、管理職や同僚が声がけをし、支援している。** | | | | |

| 領域 | ＮＯ | 評価項目 | | 教職員評価コメント | 教職員評価 | 学校関係者評価者評価コメント | 評価者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育課程・学習 | 4 | 主体的・対話的で深い学び | **本校は、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくりに全校で取り組んでいる。** | ◎本校の生徒の学力は、全体として伸びている。また、その伸び率も目覚ましいものがある。数年前と比較すると、飛躍的に学力が向上していると表現してもよい状況にある。<br>・授業研究会の在り方をどのようにしていくのか。 | A | ・十分にできていると思います。<br>・学力の向上はグループでつながっている効果が出ていると思います。<br>・現在取り組まれていることがこの先にどのような結果になるのか、期待を込めての評価です。<br>・グループでの学習の欠点を補う取組がなされているので、良いと思います。<br>・グループでの学習環境が正解なのかわかりませんが、学力が伸びていることは良いことだと思います。 | A |
| | | | **本校の教員は、魅力的な学習課題を授業で提示している。** | | | | |
| | | | **本校の教員は、ペアやグループでの協働的な学習活動を実施している。** | | | | |
| | | | **本校の教員は、授業研究会や授業を見合う機会を通して互いに高め合っている。** | | | | |
| | | | **本校は、各種学力調査等の結果を分析し、日常の授業改善に努めている。** | | | | |
| | 5 | 豊かな心 | **本校の教員は、道徳教育の全体計画をもとに全校で豊かな心を育む教育に取り組んでいる。** | ◎気さくな生徒が多い。<br>◎あいさつは、以前よりもよくなってきたように感じている。<br>・生徒が自らあいさつができることが理想ですが、まずは教員から積極的にあいさつをしていく必要があると思います。すればしっかり返ってきます。するのが当たり前だという環境づくりをまず教員が行う必要があると思います。<br>・命に関すること、SOSに関することを授業などにおいても入れていかなければいけません。計画上で終わることなく、実感・実態があるような取組にしていかなければいけないです。また、SSTなどの内容も充実していく必要があるかもしれません。 | B | ・地域から住吉中生徒はあいさつが良くできるという話を聞くので、続けてほしいです。<br>・生徒の一部の言動についてを含めての評価です。<br>・先生と生徒との関係性が良い面として表れています。<br>・生徒が豊かな心で学べるよう、しっかりと取り組んでいただきたい。 | B |
| | | | **本校の教員は、特別の教科道徳の授業の充実に取り組んでいる。** | | | | |
| | | | **本校の教員は、児童生徒が互いを尊重し、支え合う学級づくりをしている。** | | | | |
| | | | **本校の教員は、SOSの出し方やいじめ防止等につての授業を実施している。** | | | | |
| | | | **本校の児童生徒は、あいさつや適切な言葉遣いができる。** | | | | |

| 領域 | ＮＯ | 評価項目 | | 教職員評価コメント | 教職員評価 | 学校関係者評価者評価コメント | 評価者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 資質の向上 | 6 | 体罰など教職員の不祥事防止 | **本校は、教職員事故防止のための研修や倫理確立委員会を定期的に開催している。**<br>**本校の教職員は、児童生徒に威圧的な態度で接することがないようにしている。**<br>**本校は、不祥事防止チェックリストの活用等、効果的に教職員の意識啓発を行っている。**<br>**本校は、気になることや心配なことを伝えられる風通しのよい職場である。** | ◎気を付けている。<br>◎とても丁寧な先生方が多いと思います。<br>◎自分一人で抱えていると大事になってしまわないか心配なので、すぐに相談します。全員がそうであると良いなと思います。一人では解決できなくても、共有することで何か解決の糸口が見えるかもしれません。解決に至らなくても周りの職員と共有することは大切だというのを全員が理解してほしい。 | A | ・体罰や不祥事を防ぐ取組ができている。今後も続けてほしいです。<br>・体罰等、子供から聞いたことがないため。<br>・先生と生徒の立場をわきまえた上で仲の良い関係が見えます。<br>・見えない部分もありますが、先生方一人一人意識を持って、日々、過ごしていただきたい。 | A |
| | 7 | 不登校の未然防止など | **本校の教職員は、児童生徒一人一人を大切にし、温かい雰囲気で接している。**<br>**本校の教職員は、児童生徒や保護者への対応において、話をよく聴くことや受容することを中心とした教育相談的対応に努めている。**<br>**本校は、不登校児童生徒への支援方針・具体策等（予防含む）を校内会議で検討し、家庭等とも連携しながら支援している。**<br>**本校は、個に応じた支援ができる校内の環境・体制を整備している。** | ◎家庭訪問など頑張っています。<br>◎各担任ベースになっているように感じる。学年、学校全体で連携する必要がある。<br>◎相談室・支援室に感謝しかありません。 | B | ・不登校の取組は担任に負担が偏らないように連携できるとよいと思います。<br>・先生は丁寧に対応してくれていると思います。<br>・多様性が求められる時代に温かく生徒と向き合っているように見える。<br>・相談室、支援室などの環境が、生徒を受け入れられている体制として対応できていると思う。 | B |
| 学習環境 | 8 | 特別支援教育 | **本校の教員は、特別支援教育について理解し、児童生徒の実態とニーズに合わせて対応している。**<br>**本校は、特別支援教育についての理解が深まる研修を実施している。**<br>**本校は、コーディネーターを中心に児童生徒や保護者に寄り添った就学支援を行っている。**<br>**本校は、児童生徒や保護者へ特別支援教育の理解が深まる取組（便り、説明等）を実施している。** | ◎特別支援教育について、私たちは絶えず学ぶ必要がある。<br>※総合学級と親学級でのニーズの違い【差】のようなものをどのようにすり合わせていくか。<br>・夏休みの研修における講師のお話は心にしみるものであった。<br>・研修、大変よかったです。<br>・特別支援教育の考え方を保護者の方々にも浸透させていくことはなかなか難しいことだと感じる。ご理解をいただけるよう対策を考えていくべきである。 | B | ・手厚い支援がされていると思います。数年前と比べて学級数も増え、より個々の特性を重視したクラスになっていると思います。<br>・ていねいな対応をされていると思います。<br>・特別支援教育に対する対応が見えてこない。 | B |

| 領域 | ＮＯ | 評価項目 | | 教職員評価コメント | 教職員評価 | 学校関係者評価者評価コメント | 評価者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 家庭・地域との連携 | 9 | 開かれた学校づくり | **本校は、学校運営協議会の充実に努めている。** | ◎家庭や地域とどのようにつながっていけば、住吉中がよりよい『開かれた学校』となっていけるのかを今後も検討、模索していく。<br>・大宮住吉神楽など地域の伝統芸能を継承していくような取り組みは続けていきたい。<br>・住吉神楽しか思い浮かびません。地域を広げて考えると、様々な方に各学年で講師をお願いしてるのは分かります。 | B | ・学校運営協議会でお話を聴かせていただき、生徒を思う先生方の愛が感じられてとても良かったです。<br>・地域の伝統芸能を継承していく活動は続けてほしいです。<br>・学校応援団を含めてもっと上手に地域を巻き込めたよいと思います。<br>・地域とのつながりは良い方だと思います。<br>・保護者へは学校だよりで情報発信ができていると思うが、その他の方（地域の方）へはどのように発信できているのかわからない。 | B |
| | | | **本校は、ホームページや学校だより等で定期的に情報発信を行っている。** | | | | |
| | | | **本校は、地域の人材を授業や諸活動に活用している。** | | | | |
| | | | **本校は、家庭・地域に開かれた行事や教育活動を積極的に実施している。** | | | | |
| 小中連携 | 10 | 小中連携 | **本校は、児童生徒が安心して学校生活を送るための学校間の情報交換会を実施している。** | ◎小中連携の意義からもう一度考える必要がありそうだ。<br>・まずは、小学校の先生方の顔と名前を覚え、双方向の関係性を築けることが大切である。<br>・本年度、本校の教員が２名ほど学区の小学校へ出前授業や小学校の授業参観を行っている。中１ギャップ等の改善、ハードルの緩和に有益な取組であると感じている。 | B | ・先生方がそれぞれに行き来されているとお話を伺い、連携がとれていてよかったです。<br>・できている方だと思います。<br>・東部４校（住吉中・三芳野小・勝呂小・上谷小）で、小中連携がとれていると思う。 | B |
| | | | **本校は、生活の決まりや学習の進め方等、小中で共通した取組をしている。** | | | | |
| | | | **本校は、体験授業・部活や合同研修等、児童生徒や教員が相互に関わる取組を実施している。** | | | | |